

# 令和元年度 第2回魚沼市総合計画審議会 会議録

日 時	令和2年1月28日（火）19時00分～21時00分
場 所	小出ボランティアセンター 多目的室、研修室
出席	八木由美子委員、穴沢邦男委員、井口政秀委員(会長)、米山幸子委員(副会長)、星俊寛委員、関川正規委員、滝沢茂委員、アナボヌ実砂子委員、佐藤喜郎委員、大嶋利明委員、椛澤一彦委員（11人）
欠席	三友泰彦委員、関 武雄委員、中島 拓委員、中出文平委員、多田勝也委員（5人）
事務局	総務政策部長 森山、企画政策課長 吉澤、企画調整係 岡部、主任 浅井

## （会議の要旨）

### ※要点のみ記録

#### 1 開 会（18：55）

進行：会長

#### 2 議 事

##### （1）市民アンケート結果の報告【資料に基づき事務局説明】

質疑：

（委員）満足度、重要度を点数化する手法は、魚沼市独自のやり方か

（事務局）5年前、10年前のアンケート手法を引き継いでいるもの。

（委員）入広瀬地域で実施したアンケート（集落点検アンケート）の結果は、どこかに記載されているか。

（事務局）集落点検アンケートは、各地域での実施であり、今回の総合計画アンケートとは別のものとして取り扱っているため、この結果報告書には記載ない。

（委員）アンケート結果について、回答者へ報告や市民が見られるようにホームページ等に載せた方が良い。

（事務局）概要版を1月号市報うおぬまに掲載し、ホームページにも報告書掲載している。その他、市民センターと各地域の図書館に報告書を設置して閲覧できるようにしている。無記名回答のため、特定の回答者への報告書送付はなし。

##### （2）前期基本計画の中間検証について【資料に基づき事務局説明】

2班に分かれて作業へ（1班 多目的室、2班 研修室） 各班での意見は別紙のとおり

#### 3 その他

##### （1）連絡事項

事務局：次回審議会の連絡 2月6日（木）19：00～小出ボランティアセンター

##### （2）その他

特になし

閉会（21：00）

別紙 議事(2)前期基本計画中間検証調査(各班要旨)

第1節 生活基盤【第1班】

(委員)

施策シートP1の「市街地の拠点づくり」がアンケートのどこに結果がでてくるのか教えて欲しいのと、P2のどの施策にあたるのか教えて欲しい。

P2のライフラインの維持でガス水道施設の統合を目標に上げているがどのような意味か？

(委員)

市民アンケートからは、「市街地の拠点づくり」について、重要度、満足度は上昇しているが商店街がよくなっていないで、むしろ衰退している。

ハード整備は進んだけれども商店街は衰退しているのではないか。

(委員)

市民アンケートからは、道路の整備、市街地の拠点づくり、まちのバリアフリー化の促進について、「やや不満」の割合は高い。概ね良好の評価と結びついているのか？

コンパクトなまちづくりを進めているようであるが、どの程度、市民に浸透して進んでいるのか？(景観計画の策定にも関わったこともあるが、会議も1度きりであったが…)コンパクトなまちづくりは生活基盤の整備として重要なことではあるが、(市街地から離れたところに住んでいるが)コンパクトなまちづくりの市の考え方自体はどのようなものか？疑問がある。

(委員)

安心で便利な生活基盤の整備は、概ね良好と評価されている。評価は満足度が上がっているればプラスの評価なのかもしれないが、前回調査に比べ、道路の整備、市街地の拠点づくり、まちのバリアフリー化の促進はそれぞれ満足度の指数は下がっている。

加えて総括表の第1項では、(課長検証が)概ね良好で、(行政評価会議が)引続き推進とあるが、第2項、3項では、一部改善とあり、検証がかみ合っていない。

(委員)

公共交通について概ね良好と検証しているが、問題がある。基幹病院に行くバスで困っている話は多く聞かれるので、通院に係るバス運行の改善をしていただきたい。

(委員)

予算を上げて運行回数を増やせば満足度は上がるかもしれないが、予算の中でバス運行を行っているため、予算ありきで評価されているのではないか？

(委員)

原発事故の防災体制も次期計画に計上して欲しい。

(委員)

全般的に指標の目標数値が適切かどうかにもよるが、指標の達成度合いは、目標値に向かって達成したかしないかは明白であるが、満足度は、現状がどう満足しているかが本来なんだろうけれども結果がでてくるまで時間を要するので、本当は不満足ではあるが、現状ではその方向に向かって進んでいるので満足だ、との捉え方もできる。アンケートの聞き方にも

よるがどうか？

(委員)

防災は地域によって対策を立てないと効果が上がらない。防災訓練もマンネリ化しており、コミ協で自主防災の事務局を依頼されているが、防災士も組織化されておらず機能していないこともあり防災士と連携もとれない。また、市の取り組みも防災担当の人数が足りておらず、災害時のボランティアの受け入れなど、根本的に防災組織が機能していない。防災体制の整備は、道路整備と違って、災害が生じた場合は、緊急を要するので対策を検討していく必要がある。

## 第2節 環境衛生・自然【第2班】

(委員)

9施策のうち4施策が『やや不良』となっている。『やや不良』が多いことが気になる。前期計画で取り組んだ内容を丁寧に分析、検証した結果だとは思いますが、『概ね良好』でも引き続き推進しなければいけないだろうし、『やや不良』では、もっと頑張らないといけないということになる。

(委員)

「森林と里山の再生」が『概ね良好』であるが、里山の整備状況とクマなどの鳥獣被害の現実と評価のギャップがあるように感じる。

エサの不足ということもあるだろうが、調査をしたら里山の境界が崩れているので、街に出てくるということがあるのではないか。

(委員)

「森林と里山の再生」について、魚沼市は約85%が森林であるが、この計画でいう森林や里山は市内全体を言っているのか、指定された一部の範囲を言うのか。

アンケートについても、魚沼市全体について聞いているの、総合計画について聞いているのかが、これではわからない。

(委員)

森林の整備ということでは、魚沼市は最低。群馬あたりに行くと下草がきれいに刈ってある。クマについても、住宅地に隣接した森林・里山について下草刈りなどの整備が大事になる。

大原スキー場付近は春の山菜取りができる。しかし下草刈りがされておらず大変荒れていた。こういう所もきれいにしないと、外から来た人に「なんだ、こんな所か」とマイナスイメージを与えてしまう。前期基本計画では触れられていないのであれば、後期基本計画では付け加えることも検討が必要ではないか。

(委員)

「森林資源の利活用の推進」が『やや不良』となっているが、現在、まちづくり委員会でも木育に取り組んでいるが、その部分も見なかで評価なのか。

→(事務局)ブナ材を活用した新商品等。木育についての評価ではない。

(委員)

「森林と里山の再生」の事務事業の中に、クマ対策や有害鳥獣被害対策の具体的な事業を加えるとわかりやすいのではないか。

(委員)

木質バイオマスは、南魚沼市の民間サイド主導で進んでいるようだが、魚沼市の森林組合関係者は、枝打ちした木材を燃料として供給するという意味での利用量(t)ということか。→(事務局) それ以外にも、ブナ材の新商品なども含めた利用量となっている。

(委員)

「環境教育と環境学習の推進」について『概ね良好』となっているが、市外の子もたちの滞在日数が2泊3日であったものが1泊2日になるなど減っているという話を聞く。相手方が内容に満足しないと、来年からは学習先として魚沼市を選んで貰えなくなる可能性がある。現状を維持しているから『良好』とするのではなく、満足度を高める努力や計画が必要ではないか。大勢の人から魚沼に来ていただけるということは、とても大切なこと。→(事務局) 本来、総合計画は市民のための計画であって、その面から考えると、もっと市民の参加を促すような取り組みも必要なのかなと思うが、その点についてはどうか

(委員)

両方の面から考えることが必要で、市外からの子どもたちが来なくなるということは、観光や商業の分野で損失が出ることになる。また、教育の面で、市外の子もたちから来てもらうことで、市内の子もたちとの交流も考えないといけない。

観光と教育とを考えていくこと必要

市外の子もと交流することで、市内の子もが、魚沼の良さを認識する良い機会になる。

(委員)

指標の設定を、市外と市内で分けて併記するような形にした方が良い。外から人が来てもらうことは大切だが、子どもの教育については、尾瀬学習など従前と比較すれば進んでいると思う。逆に生涯学習の面で、大人が自分たちの地域を見つめる機会が弱いと感じている。その部分での拡充が必要ではないか。

指標については、大人・子どもで区分する必要はないが、市外の人と市民では区分することを検討してほしい。

また、目標値についても、もう一度庁内で検討してほしい。子ども的人数、人口が減っているのに、目標値だけ増やしていくというのは、分母が減る中では、大変だと思う。

→(事務局) 行政評価会議でも、生涯学習との連携も感ることが必要とは考えている。

指標については、他にもご意見を頂いている。後期基本計画では検証できるような指標を検討したい。

(委員)

環境教育や環境学習に従事する指導者の養成に取り組んでいることは、非常に大切なことでありがたい。

(委員)

「ごみの減量とリサイクル」について、家庭での生ごみを肥料にするコンポストは補助を出していた。最近では、あまり見かけないように思う。ゴミとして出してしまうと簡単

ではあるが、すべて費用として自分たちに振りかかる。生ごみを分別して自分で肥料にするだけでも、かなり減量になる。市民への教育や周知が必要ではないか。

### 第3節 健康・福祉【第2班】

(委員)

「子育て支援」について、3歳児での子育てが楽しいと感じる人の割合がかなり低い状況であり問題。4か月児、1歳6か月児では、母が育児休業中ということもあると思うが、3歳児になると仕事と育児の両立という問題が出てくる。

不妊治療費助成などのケアはもちろん必要であるが、もっと多くの人たちへの支援を考える必要があるのではないか。例えば、国は保育料の無料化など打ち出しているが、保育園等に預けなくて自分で子どもを見ている人への支援は必要ないのか。また、「安心して産み育てる喜びを感じることができる社会の構築」という目標と市が取り組んでいる事業の不一致を感じる。3歳児の子育てが楽しく感じられるようになる事業がない。

(委員)

5節の教育分野で学校教育はある。ここでは主に乳幼児が対象だと思うが、教育と関連する部分があれば、すみわけの整理も必要

(委員)

「高齢者の社会参加」について、指標では高い数字になっているが、現実とかけ離れている。老人クラブの加入率は40%程度となっている。医療費抑制や高齢者の孤立防止の面で、高齢者が外へ出ることが大事。高齢者の社会参加への魚沼市としての取り組みは少ない。実態として老人クラブへの参加者が減っていることはわかるが、『概ね良好』と判断されていることに驚いた。判断が甘すぎる。

(委員)

「高齢者の社会参加」は、市は各種取組を頑張っていると思うが、市民が社会に出る方向に仕組みを変えないといけない。子どもでもロコモ（ロコモティブ・シンドローム：運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態、和名は「運動器症候群」）で、子どもの時期から介護予防しないと間に合わないという状況。

介護予防への取り組みは各世代が必要であり、子どもから大人までの健康づくりと介護予防の意識をあげる取り組みが必要。現状で『概ね良好』となると、そこで止まってしまう。

(委員)

『不良』でもいいくらい。

(委員)

「暮らしの支援体制」では、目標は大変大きなことを謳っているが、「高齢者に関するボランティア活動に参加したい人の割合」が指標となっている。これは統計の取り方で、変わってしまう。また、介護予防事業の参加者割合も、介護予防事業は市主催、各福祉法人がやっているなど様々な事業があるのを集計するのは大変。何の数字なのかを明確にしておかないと、判断ができない。

(委員)

この指標でしか現わせない現状も理解している。若返りトレーニング教室は定員オーバーするほど希望があるので、会場を増やしたり参加者の枠を増員したりは予算の都合。ただ、介護予防を上回る、施設入所希望者がいるので『やや不良』という判断なのだと思う。

## 第4節 産業【第1班】

(委員)

生活基盤分野に比べると指標の達成状況は良好であるが、検証結果はやや不良が目立つ。

(委員)

産業分野はやや不良が多いが、市としての取り組むには、難しい分野と思う。市で努力をしているだろうけれども、「雇用機会の拡充」、「地域の担い手」は、アンケートでは不満が満足より大きくなっている。市民に分かりにくいこともあるが、(観光面では)只見沿線の人たちも頑張っているし、広域圏の取り組み、浦佐駅の観光スペースを設けている割には具体策が示せていないし、結果が結びついていない。発信力を強化していくとあるが取り組みや考えはあるか？

商工関係もある程度の具体的な取り組みを進めて行かなければ、商店街は衰退していく。

(委員)

6町村が一緒になったが観光も商業も一体化できていないし、只見線沿線は連帯がとれていない、リーダーがいない。リーダーシップをとれる人材が育ってくれば、まとまってくると思われる。また、商業はお客さん次第などところもある。小出の商店街は作り上げてしまったので、今更何かをできないので、今あるものを活かしていかなければならない。

(委員)

戦略的な企業誘致の推進とあるが、(指標の)目標値の150人高かったのか、低かったのか妥当だったのか？150人の就労者が市外から来たのか、魚沼市内の中で動いただけなのか？

(委員)

田畑の耕作に行政としてのバックアップが、または、指導ができるのか？

(委員)

魚沼ブランド推奨品はホテル等に宿泊すると料理は提供されるのか？

(委員)

魚沼杉はブランドとして手掛けるなら加工まで地域でできる体制づくりまでしないと意味がない。

## 第5節 教育・文化【第2班】

(委員)

「保育・教育の質の向上の仕組みづくり」とは、例えばどんなことを言うのか。これだけ

読んでもわからない。「質」の向上とはどういうことか。

この施策目標と成果指標を見る限りでは『概ね良好』でも良いのかなと感じたので聞いてみた。

(委員)

これは正解のないことだと思う。魚沼市の特色がないことが「質」の問題になるのではないか。スキー場の問題は別として、自然とミックスさせた中で、冬はスキー場で何かする、夏は必ず尾瀬を訪れるなど、特色を出さないのが、対応がぶつ切りになり、仕組みとして定着しないのではないか。

私も小学生の子どもがいるが、特色が無いと、保護者は学校へ期待しなくなり、自分の望む子育てを自分ですることになる。この地域でいえば、夏は川で遊んだり冬はスキーに連れて行ったりということになる。市として「スキーもできるし、ここに行けば自然体験ができる」ということがあると良い。自然が豊かなことは、市外の人からは高い評価を受けるが、市内の人はなかなか活用しない。そのため仕組みができれば、保護者の教育や健康づくりにもつながっていく。保護者に意識がなければ子どもも健康にはならない。

大人が魚沼の良さを分からないことが問題

(委員)

子育ての駅かたづくりができて、環境の整備は進んでいると思う。

かたづくりは、市外からの利用も多い。響きの森公園の利用も、市外から来ている。運動教室を開催した際、定員 40 名すべてが市外在住であった。

特色を活かしていない。良い施設はたくさんあるがPRとニーズが一致していない。

(委員)

市民の利用が少ない原因は何か。市民へのPRが不足しているのか市民の参加しようという意識がないのか。

(委員)

市民の意識の低さだと思う。意識が高ければ市外からでも参加する。市民は悠長というか、「いつでも行ける」と思っていたら行けなかったという話をよく聞く。

自分たちは良いものを提供して、たまたま参加者が市外の人だったということ。

(委員)

スキー場も同様のことが言える。薬師のスキー教室も市外からの参加が多い。良い場所はたくさんある。→(事務局) 魚沼市の特色をもっと前面に出すことが必要と言うことか。

(委員)

魚沼市のスポーツ少年団の加入率はすごく高かったものが、単純に子どもの数が減ったことで下がっている。これは全国的に言えることで、各地でスポーツ少年団の疲弊が生じている。

魚沼市も同様にどんどん衰退している。子どもたちのニーズも、スポーツにない状態になっているため、『やや不良』という結果は致し方ないと思う。

指導者の問題も、日本全体の問題で、素人が指導するというレベルではない。お金を払わないとある程度のレベルの指導は受けられない。

魚沼市でもスキーや水泳に結構な費用をかけて通っているケースもある。スポーツ少年団は1,000円や2,000円の安い費用でやっている。時代の曲がり角に来ていると思う。

『やや不良』でやむを得ない。この問題に対して『概ね良好』となるところは全国的にもないと思う。→(事務局)改善するには、何が必要か。

(委員)

子どもの問題だけではなく、部活、教員の働き方など総合的な政策が必要になる。しかも、すぐに取り掛からないと、子どもにとっては大きな問題になる。

(委員)

来年は、部活を減らす中学も増えるのではないか。一つの学校のレベルを超えて、市としてやっていかないと、できないスポーツも出てくる。

(委員)

菑澤君の例もある。市が悪いとかの問題ではなく、選択肢が増えたということ。市はできることを粛々と進めることが大切なこと。選択肢が増えることが、スポーツができなくなるということではない。

できることにしっかりと取り組めば魚沼市の良いところが出てくる。スキーをはじめ、様々なスポーツができる市は他にはない。高齢者も元気だし、この中で上手くやれば、子どもたちは魚沼から離れずに、高校生くらいから花を咲かせる選手が出てくると思う。

## 第6節 市民協働・自治体運営【第1班】

(委員)

まちづくりへの市民参画の推進で指標の現在地、目標値はあるが、年度の記載がない。事柄評価なのか？

(委員)

市民参画については、市として基本的な方向性が示せていないため、アンケート結果をみると明らかで半分以上の人が分からないと回答している。

市民参画がどのようなものか市民が理解できていないのではないかと？

コミュニティ協議会自体も地域で必要なのかそうでないか、自治会との二重組織ではないか、ということで、住民が理解していないと、かなりの労力を使っているいろいろな活動をしていても、無駄になってしまう。

コミュニティ協議会の趣旨を私たちの言葉で住民に話をしても伝わらないので、住民を取り込んだ運営ができるように行政は責任をもって制度の周知を行う必要がある。

(委員)

関心が持てるように、市でどのようなことをしているのか啓蒙していかなければ、若者参加も難しいのではないかと？

(委員)

人権について部落問題も含まれているのか？アンケートの趣旨に部落問題について聞かれているものであれば分からないと思われる。

## 全分野に係る事項

(委員)

設定されている成果指標が、施策目標と合致していない。また、人口が減少する中で、目標値を増やせば良いということでは、大変だと感じる。

(委員)

評価基準の整合がとられていない。